



令和8年2月24日（火）、本年度第2回の学校運営協議会全体会が開催されました。
本年度は、幼稚園・小学校・中学校の部会別に計画を立て、それぞれの活動をすすめてきました。
今回は、各部会からの報告と次年度に向けた協議を行いました。
津山教育事務所生涯学習班より畝本副参事と英主任をお迎えし、ご指導いただきました。



開会あいさつ

◇岡野会長◇

毎日のように、地域の方の話を子どもから聞いている。
地域で子どもたちを育ててもらっている実感がある。

◇河野教育長◇

地域が子どもたちにかかる期待が大きい。
学校が抱える課題には、地域の方のアイデアや力が不可欠である。協議会を核にし、課題に向き合い、健全な子どもの育成を願っている。



ご意見！

- 幼稚園から中学校までつなげる考え方が大切。全体会が基準となって、協議内容によってわかる形にしてはどうか。
- 幼・小・中のつながりが見えるよう、一日で参観できないか。
- 見守り隊の活動は長く続いている。子どもにかかわる活動としてよい機会となっている。保護者やもっと幅広い方に参加してほしい。
- 子どもの思いが見えない協議会になっている。子どものやってみたいことを実現する協議会にしたい。

《次年度に向けて》

- ☆子どもや保護者の意見が出せるようにする。
- ☆全体会、幼小中部会、トピック部会など、協議内容に合わせて柔軟に考える。
- ☆協議会の役割や目的を再確認し、方向性を示す場として位置付ける。具体的な活動は、協議会の方向性を踏まえた内容で、当事者間で考える。
- ☆子どもと大人の課題をすり合わせることで、一緒に取り組むことがあってもよいのではないか。
- ☆地域のイベントに参加し、一緒に作っている経験が大切ではないか。
- ☆子どもと地域の交流にとどまらない、交流の中から次の課題や発想につながるものにしていくことが重要。
- ☆地域の課題を子どもにつなげる仕掛けが必要。
- ☆単年度計画ではなく、年次計画とすることや、完結しない探究にすることで、連続性が生まれ、中学卒業後にもつながる探究学習になるのではないか。



活動報告

◇幼稚園◇

あたたかい村の雰囲気を感じる。地域の方の見守りや、子どもたちのために何かしてやりたい、という思いがある。

地域の方とのふれあいを大切にした活動として、プランターに花植えを行った。その後、園児が組体操を披露した。地域の方に褒めていただき、園児の自己肯定感向上にもつながった。

◇小学校◇

今年度からの取組である「ホームタイム」の活動を、地域の方に参観していただいた。活動を児童の自主性にゆだね、「自ら仲間と学ぶ」活動のねらいを理解していただいた。

「運営協議会委員と学校が一緒にできること」をテーマに協議を行った。授業サポートだけでなく、学校発信の取組を進めながらも、負担感のない活動を探っていく。

◇中学校◇

授業参観の後おこなった協議では、多様な人との出会いや、将来に向けた経験、社会への接続、精神面での成長などを目的とした活動が重要との意見がだされた。あわくらグラウンド・ゴルフ協会の方とのグラウンドゴルフ体験、生徒の作品を役場に展示、村内事業所へのインターン体験など、具体的な活動アイデアも複数提案された。

授業サポートに来ていただく実績も増えている。

まとめ

- 学校運営協議会は協議をすることに意味がある。しっかり熟議をする場にする。
- 子どもにつけさせたい力を基準に、活動方針を立てる。
- 村の課題に向けて、幼・小・中で取り組むことを共有する。
- 幼・小・中部会に固定をせず、協議内容に合わせて必要ならグループ分けも取り入れる。
- 学校運営協議会での方向性を踏まえ、地域学校協働本部事業が中心となって活動を行う。
- 幼小中全ての子どもの様子を見る機会をもちたい。



畝本副参事（津山教育事務所生涯学習課）より助言

- ・以前の協議で考えられた「子どもたちにつけたい力」をもとにした協議の場で、委員が積極的に発言している姿が見られた。
- ・子どもたちから地域の方の名前が出ていることで、地域で子どもを育てていることがわかる。
- ・児童、生徒も含めた拡大熟議には、教育事務所も協力できる。

開会あいさつ

◇白旗副会長◇

学校運営協議会で出された意見を取りまとめて、ぜひ形にしてほしい。子どもたちが、西栗倉で育ったことを財産と思えるようにしたい。